

京急新1000形 (1次車・1017編成・SRアンテナ付)

グリーンマックス

- 塗装済完成品
8両セット：35,970円(税込)

現在20次車まで存在する京急の主力・新1000形。2002年に登場した1次車はアルミボディで、側窓の天地寸法が2次車以降より小さく、ドア間の窓が2分割されているのが特徴だ。1017編成は1次車としては最後まで、オリジナルのドイツ・シーメンス製VVVFインバータ装置を搭載していた。

製品は先頭車へのSRアンテナ追加後、機器更新前の2018～19年頃を再

現。1次車は久々の展開となるが、最近の新1000形各製品に準じてライトユニットは行先点灯仕様へアップデートされており、実感的な走り姿が楽しめるのも魅力である。

〔セット内容〕

- デハ1017+サハ1018+サハ1019
+デハ1020+デハ1021+サハ1022
+サハ1023(M)+デハ1024



▲行先表示はフルカラーLEDに換装されている(モデルではステッカー選択式)。



京急新1000形 (KEIKYU YELLOW HAPPY TRAIN・ドア銀色)行先点灯

グリーンマックス

- 塗装済完成品
8両セット：34,650円(税込)

実車は1本のみ存在ながら、そのスペシャルティゆえに高い人気を誇り、Nゲージでも繰り返しリリースされている京急新1000形「KEIKYU YELLOW



HAPPY TRAIN」。今回、ドアが銀色に装飾されていた2014～17年頃の姿が改良生産された。この改良品では2020年発売の「ドア黄色」仕様と同じく、ライトユニットが行先点灯タイプになったのがポイント。下部標識灯レンズもカバーガラスを再現した実感的なものとなる。同時に標準塗装の2次車(もちろん行先点灯仕様)も再生産さ

れており、こちらも併せてチェックしたい。

〔セット内容〕

- デハ1057+サハ1058+デハ1059
+デハ1060+デハ1061+デハ1062
+サハ1063(M)+デハ1064

▶ライトユニットの刷新により、従来品より前頭部の印象が向上した。



京成3150形 更新車 千葉急行3150形

グリーンマックス

- 塗装済完成品
京成4両基本セット：23,430円(税込)
京成4両増結セット：20,900円(税込)
千葉急行4両セット：23,430円(税込)

116頁で紹介の北総開発鉄道7050形の関連アイテムとして京成3150形・千葉急行3150形が改良再販。

京成3150形は1963年、「赤電」と呼ばれる京成高性能車で初めて中間車を組み込んだ4連で登場。製品は車体



■京成3150形 更新車

更新・冷房化・新塗装化を経た1994年頃の姿で、FS329C台車を履く。行先種別は「特急 上野」が印刷済である。

千葉急行3150形は、同車が千葉急行電鉄(現・京成千葉線)へリースされた姿。プロトタイプは1997～98年にかけて活躍した3154編成で、台車はKS116C、行先は「普通 上野」となる。

どちらもコアレスモーター動力・電球色ライトを備え、先頭部には北総車と同様にジャンパー柱・エアーストック表現付のダミーカブラーが装着されている。

〔セット内容〕

- 京成基本：モハ3174+モハ3173
+モハ3172(M)+モハ3171
- 京成増結：モハ3178+モハ3177



▲北総7050形と同様、旧製品よりカブラー廻りのディテールが充実している。

+モハ3176(M)+モハ3175

- 千葉急行：モハ3154+モハ3153
+モハ3152(M)+モハ3151

■千葉急行3150形

